

JATA 主催 「新商品企画セミナー」が開催されました

11月21日(月)にJATA新商品企画セミナー第85回「ウズベキスタンセミナー」が日本旅行業界(JATA)会議室にて開催されました。「ウズベキスタンにおける観光分野の発展動向」として、駐日ウズベキスタン大使館エルムロドフ領事より日本人観光客やウズベキスタン訪問者数など、データからの分析を説明。ウズベキスタン国営航空は、保有機材や就航ルートなどの他、新たにオープンした空港情報などを説明。ウズベキスタン政府観光局は、初心者にもわかりやすく一般的なモデルコースをもとに世界遺産やウズベキスタンの見どころを、現役日本語ガイドのシヨムロドフ氏が説明。シルクロードにおいてのウズベキスタンの重要性、東洋と西洋の交わる文化をはじめ、勿論ウズベキスタン事情や観光スポットやなどもプレゼンテーションしました。他国と比べると情報が少ない国なので企画販売に自信が持てませんでした。今回のセミナーを通して、ウズベキスタンの観光ポテンシャルについてよく理解でき、今後自信を持って企画販売に取り組めるとの嬉しいご意見も頂きました。



現役現地日本語ガイド
シヨムロドフ・シユンコル氏による説明

タシケント、ブハラに、相次いで新国内線ターミナルオープン

2011年9月1日にウズベキスタンは独立20周年を迎えましたが、記念すべき20周年の9月1日にタシケント国際空港第3ターミナルがオープンしました。ウルゲンチ行きやブハラ行きなどのウズベキスタン国内線は、従来の国内線ターミナルから第3ターミナルへ移行されました。国際線ターミナルから第3ターミナル間は、9時から22時までは無料バスサービスを実施しています(バスの運行時間は変更される場合もあります)。そして10月31日にブハラ国際空港新ターミナルがオープンしました。旅客ターミナルとして、全て国際基準を満たしたターミナルが誕生しました。タシケント、ブハラ共、より一層便利になって、ご利用頂けます。



ブハラ国際空港新ターミナル

ウズベキスタンの中の「ちいさな日本」～フェルガナ地方 第2回(全6回)

ウズベキスタン東部フェルガナ近郊のリシタンでは、日本人が創ったボランティア日本語学級「NORIKO学級」で多くの子ども達が日本語を勉強しています。日本でNORIKO学級を支援しているリシタン・ジャパンセンター(RJC)事務局長、寺尾千之(てらおちゆき)氏による「ウズベキスタンの中の「ちいさな日本」～フェルガナ地方」、第2回目です。

第2回 リシタンの結婚式風景

NORIKO学級はナジロフ・ガニシエル校長の家の斜め前にある。今、一期生達は20歳前後になった。学級代表として日本語学習発表会やCIS学生日本語弁論大会などで優勝・入賞を果たした彼らは、留学、就職、国際結婚など、独自の道を切り拓き日本との縁を紡ぎ続けている。その中の一人、日本企業で働く青年が故郷で挙式をするという。結婚式は、その国の伝統文化を楽しみながら学べる絶好の機会だ。早速、式に照準を合わせて手配を旅行会社に依頼した。

式当日、花婿から「午前7時に男性客、正午に女性客、午後4時過ぎに若者と子ども達が集まります。」と聞かされた。私が早朝に見た限りでは、裏庭の料理場も男性一色だった。朝食は、ウズベキスタンが誇るナン、西瓜、葡萄、リンゴ、杏、朝瓜、胡桃、ヤギのチーズなど。昼からは民族楽器生演奏が始まり、プロの歌手が朗々と歌いあげていく。昼食はプロフ、ラグマン、夕方にはウォッカ、ワインと、タイミングよく地元の青年達が運んで来る。昼過ぎ、女性客が彩を添えたところで、ゲストスピーチが始まった。花婿花嫁の入場、新郎両親の挨拶などを挟んでその後もスピーチ、ウズベクダンスが繰り返され、若者達が来場した4時過ぎからはディスコ化した。式には新郎家族と親交のある日本人夫婦、ボランティア講師達、日本人墓地関係者など、20名近くの日本人が列席していた。日ウズ草の根交流は多岐にわたり展開されているのだ。

リシタン・ジャパンセンター (<http://rjc.bz/>) 事務局長 寺尾千之



午前中の風景。男性客のみ集まる



午後の風景



準備中のバンドメンバー達



新郎新婦入場



ウズベキスタン政府観光局
ウズベクツーリズム代理事務所



〒108-0014 東京都港区芝5-9-8 吉橋ビル5F 株式会社AJT内 担当:正岡

TEL: 03-3456-0452 FAX: 03-3456-0454 E-MAIL: tyo@uzbjp

業務時間: 10:00~17:00 (一般の方は電話・メールでのみ受付)